［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4290100140
法人名	医療法人社団健昌会
事業所名	医療法人社団健昌会　ぐるーぷほーむ新里城栄
所在地 （電話番号）	長崎県長崎市城栄町11番2号 （電　話）095－813－1828

評価機関名	SEO ㈱福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	平成20年2月26日

【情報提供票より】（　平成19年4月10日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　18年　11月　1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	8人	常勤　8人，非常勤　人，常勤換算　4．4人	

（2）建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄骨造り	
	5階建ての　4階　～　5階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	48，000円		その他の経費（月額）	円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　100，000　円）		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300円	昼食	450円
	夕食	500円	おやつ	50円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（平成19年4月10日現在）

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢　平均	86歳	最低	69歳	最高	93歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	新里内科、田川療養所、吉田しんいち歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の医療法人や同法人のグループホームが培ってきた経験を基本にしながらも、新しい地域で新しいスタッフで、全職員が力を合わせて日々のケアに取り組んできた。交通の利便性の良い商店街の一角にホームはあり、積極的に地域の方々との交流を進めている。若い方が少なくなってきている商店街だけに、ホームの職員の力は地域の活性化にもつながり、地域の方々の安心にもつながりつつある。毎朝、地域の清掃活動にホームの職員が自主的に参加し、地域の方々に挨拶を続けるなど、地道な活動が地域の方に受け入れていただける結果につながっている。同建物内の小規模多機能ホームやデイサービス、居宅介護支援事業所ともケア面での連携が取れており、“ご入居者やご家族のお気持ちを大切にしていきたい”という共通の目標に向かって全員で取り組みを続けている。建物全体の内装は木の温かみを基調としており、同建物内の、どのフロアにも類似したソファーが置いてあり、どのフロアーに行っても違和感を感じさせない雰囲気を作っている。習字の得意な方に理念を書いていただき、額に入れてリビングに掲げてあったり、編物の好きな方の作品を施設内の随所に飾っているなど、ご入居者、職員、家族、地域の方々も含めて、みんなで居心地の良いホームを作り続けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

今回、開設初めての自己評価、外部評価である。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回初めての自己評価である。管理者が自己評価の意味を中堅職員に説明し、それを各職員に伝えて自己評価表を記入してもらった後、管理者と中堅職員が再確認し、管理者が1つにまとめあげた。その結果、具体的な改善計画も作成され、すでに改善に向けた取り組みを実施している。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

同建物内の小規模多機能ホームと合同で開催されており、参加メンバーはご入居者、家族、自治会長、商店街理事長、地域包括支援センター長、事業所職員等である。運営推進会議では、自治会長や商店街会長より、夏祭りや七夕への参加要請があり、準備、出し物、後片付けにも職員が参加した。防火訓練の議題を出したときには夜間設定にした訓練にしてはどうかという意見もいただき、商店街のアナウンスを利用しても良いという提案もいただいた。前回までの防火訓練はご入居者と職員だけだったが次回の訓練には地域の消防団に協力を要請する予定となっている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

意見箱を設置したり、家族やご入居者に対して無記名アンケートを年に1回おこなうようにしていて、結果については法人全部門に報告し意見をもらっている。家族の知りたい情報を、個別にもっと把握していきたいと考えており、職員の方からの声かけやお便りのの発行を続けている。徐々に、家族の方からも相談・要望もいただけるようになってきている。今後も、もっと家族の方々とお話をする機会を大切にし、お気持ちを聞いていきたいと考えている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

毎朝15分程度、職員が自主的に建物周辺の清掃を行っており、近所の方々と挨拶を交わしている。日々の買い物も、近くの商店街を毎日利用するため、地域の方からもよく声をかけてもらったり、散歩の途中に花をいただいたり、商店の方からリサイクルできそうなものなどをいただいている。地域の夏祭りにも参加できたが、今後は、ご入居者が歌などを披露できる機会も作っていきたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	4年前に同法人のグループホームが作った理念を基本にしながらも、このホームの開設時に独自の理念を職員全員で考え作り上げてきた。理念の最初に掲げている「ご入居者は人生の大先輩です」という言葉を大切にし、さらに理念の4番目「日々の暮らしの中、春夏秋冬を楽しんでいただきましょう」という言葉の中には、“地域の中で・・、地域の行事にも参加しながら・・”と言う職員の思いがこめられている。	○	理念の中にこめられている“地域の中で暮らしていく”と言う思いを、さらに理念の言葉に具体的に表現していくことで職員の方々の思いが、より多くの方に伝わっていくと思われる。また、外部評価2にも通じることになるが、理念にこめられている、ご入居者が“地域の中で暮らし続けていく”という言葉の意味、そして具体的な行動を、今後、さらに職員と考えていきたいと考えており、ケアの拠り所である理念作りに関する今後の取り組みを期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の最初に掲げている「ご入居者は人生の大先輩です」という言葉を大切にし、日々、ご入居者が生き生きと輝けるために職員全員で取りくんでいきたいと考えている。毎朝、朝礼で理念を唱和するとともに、管理者は職員一人ひとり個別に、日々のケアの中や会議の中で具体的に理念に結びつけて伝えている。その成果もあり、職員の行動にも振り返りの習慣がついてきており、地域の中で、ホームの中で、ご入居者のためにできることは何かを考えたケアを、個別に取り組めるようになってきている。	○	管理者は、常々、ご入居者の希望がかなえられるよう支援していくことが大切だと職員に伝えてきているとともに、職員の努力もあって、理念の意味を理解し、それを具体的に日々の行動に移していく視点は開設当初に比べてかなり深くなってきている。職員全員、今後も更に理念を共有し、ご入居者にもっと喜んでいただくケアができるよう取り組みを続けていきたいと考えており、理念の更なる実現に期待していきたい。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎朝、職員によるホームの周辺地域の清掃活動を行っていて、その時に近所の方々とも元気に挨拶をかわしている。食材の買出しは地域の商店街を利用し、商店の方からも声をかけていただき、お店で不要になった布、食器、文房具などをいただくこともある。商店街の夏祭りでは、職員がヨサコイソーラン節を披露したり、地域の七夕行事には入居者とともに笹に願いを書いて参加している。	○	今までは、ご入居者は“見学”という形での参加が多いため、自治体の文化祭への作品の出品や、ご入居者の歌や器楽演奏などの披露をしていきたいと考えており、地域の中で、ご入居者、職員ともに主役になれる場が増えていくことを期待していきたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	項目の意味も難しかったため、管理者は、自己評価、外部評価の目的、項目の意味を、まず中堅職員に説明し、中堅職員が他の職員へ伝えた。自己評価をおこなっていくことに時間はかかったが、職員は自己評価を行う中で、日々の取り組みの振り返りができ、さっそく自己評価を実施した後には改善計画も作成した。すでに改善に向けた取り組みをおこなっており、職員の視点も広がりケアの質の向上にもつながっている。運営者も評価の重要性を理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、ご利用者、家族、職員、自治会長、商店街会長、包括センター職員、同建物内の法人の各管理者や職員など多くの参加を得て2ヶ月に1度開催されている。会議の内容は、パワーポイントを使って写真による利用者の暮らしぶりを投影し、なごやかな雰囲気になるよう工夫されている。出席者の自治会長、商店街理事長より、夏祭りの参加（出し物、準備、片付け）を呼びかけていただいたり、消防訓練についてのアドバイスや、災害時は商店街のアナウンスの活用も提案いただいた。	○	会議の場を利用して、もっと地域の方々と交流ができるように進めていきたいと職員の方々は考えている。グループホームについての理解を深めていただくために、会議前などにホームの居間など、ご入居者の生活している場所も見ていただいて、一緒にくつろぐ時間を作る中で暮らしぶりなどのご意見をいただくなど、より生活に即した意見交換になっていかれることを期待していきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が、市役所へ出向き、ホームでのご入居者の日常の暮らしぶりやホームの取り組み状況、医療との連携の様子などを報告している。市役所の担当者も親身になってくださり、市役所の担当者の方からいただいたご意見を参考に日々のケアに取り組んでいるが、もっと市役所の方との連携を深めていきたいと考えている。	○	今後、ホームで作成した通信やパンフレット、運営推進会議録などを市役所へ持参し、その時に情報交換を深めていくなど、より市役所の方々とのつながりが深まっていかれることを期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、暮らしぶり、健康状態、金銭管理については、1～2ヶ月に1回、面会時に口頭で報告したり記録物を読んでいただいている。面会が難しい家族には月に1回手紙を出している。健康状態は、異常が無くても面会時や電話で報告し、預かり金についても1～2か月に1回出納帳を確認していただいている。職員の異動については面会時に口頭で報告し、紹介し挨拶しているが、ご家族が知りたい情報を十分把握しているとはいえない。	○	職員は、家族の思い（心配なこと、知りたい情報など）をもっと把握していきたいと考えている。今後、更に個別に、写真を入れたお手紙や、ご家族の知りたい情報の入ったお便りなどをお送りすることも検討しており、ご入居者個々の情報を家族にお伝えすることができるようになることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して、自由に意見を入れていただけるようにしている。日々、家族の面会時や電話でお話をするときに、不安な気持ちや要望を言っていただけるよう職員から声かけをしている。法人全体として、年1回無記名アンケート（対象者は隔年ごとに、ご入居者向け、家族向けに交互に実施）をおこなっている。結果については記録し、職員間で共有するとともに、対策についても話し合いをおこない、その結果は法人に報告し、法人から意見ももらっている。	○	ホーム内に、職員の顔と名前を掲示する予定であり、家族の方々に職員を覚えていただき、個別にじっくりお話を聞いて対応するようにしたいきたいと考えている。現在、相談や要望が少しずついただけるようになり、家族のご意向も把握できつつある。個別のご意向に沿った対応策を、職員の方からも提案できるようになることも期待でき、さらなる家族との交流ができていくことを期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である統括責任者は、異動は極力しない方針であり、職員の休みの希望になるべく応じたり、食事会など親睦を深める努力もなされている。管理者は健康面・心理面で気になる職員には個人面談を行い、悩みを聞いて職員の気持ちを話してもらう取り組みをしている。職員の異動があった場合は、新しい職員にはなるべく今までのケア、対応が変わらないよう情報提供、指導を行いご入居者へのダメージを防いでいる。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の教育計画を基に各職員に対して育成計画が立てられている。系列のグループホームとの合同勉強会や同建物内の事業所の勉強会もおこなわれているが、全員が参加できるよう、同じ内容の研修を毎月２日連続でおこなうなど工夫されている。勉強をすることに対して職員は積極的で、自ら勉強したいことを各自に言ってもらうようにしている。それについて、職員が自ら資料を準備し、更に講師になってもらうような体制も作っている。	○	日々の現場では、管理者や中堅職員がアドバイザーとなり、日々、職員の育成がおこなわれている。実際の勉強会への参加状況は、いろいろな諸事情で、職員全員が研修に参加できていない状況にある。今後は、短時間でも、ミニ勉強会ができるよう、日程、時間などを検討していきたいと考えている。より多くの職員が勉強会に参加し、質の向上に向けたスキルアップができていくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームが地域のグループホーム連絡協議会に加入しており、いろいろな情報はそこから入手している。協議会主催の催し物があり、職員と一緒に、ご入居者もバザーなどに参加している。開設前には、同法人以外のホームを数件見学しており、運営者も見学などの交流を支持してくれている。また他のホームと電話での情報交換もおこなっている。	○	開設1年が経過し、職員も随分、ケアに慣れてきている。ようやく落ち着いてきている時期だからこそ、更に他のホームの見学を増やし、情報交換や交流を深めていきたいと管理者は考えており、今後の更なるネットワークづくりに期待していきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに入居する前は、入院や入所をされている方が多い。家族がホームを見学された後、管理者がご自宅や施設を訪問し、ご本人とお会いするようにしている。入居のことは、家族からご本人に十分説明をおこない、納得いただいた上で入居していただくようにしている。ご本人が納得の上、入居されているためトラブルは少ないが、帰宅願望の強い方には常に職員が傍に寄り添い、夜間の不穏時に一緒に外に出かけたり、家族の協力もいただき、家族の声が聞きたい場合は自宅に電話をしたり、訪問していただいたりして馴染んでいただけるよう取り組んでいる。	○	サービス開始前の訪問は、現在、管理者のみがおこなっているが、訪問する職員を中堅職員にまで広げ、より多くの職員に入居前からご入居者と顔馴染みになっていただけるようにしていきたいと考えている。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	現在、比較的若い職員が多いため、食事作りやラッキョウのつけ方、裁縫、昔からのしきたりや風習などを教えていただいている。ご入居者が長年培ってきたお力、知恵を教えていただくようにしている。職員は、戦争中、戦後の混乱を生きてこられたお話を聞く中で、物を大事にされるお気持ちや人の命の尊さ、一人で子供たちを育てあげた大変さを学び、その方の優しさや強さ、今の時代に足りないものを学ばせていただいている。	○	もっとご本人のお気持ちに寄り添い、その方の思いを理解し、会話の仕方や態度を考えていきたいと考えている。 ホームの理念に通じることでもあり、お一人お一人のご入居者が、さらに“穏やかで安心した生活”になっていかれることを期待していきたい。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使ってご本人の意向を把握していく取り組みを始めたばかりであり、ご入居者のご希望や意向をまだ十分把握できていない状況にある。意思疎通が困難な方で、意思の把握が難しい方々にも、ご本人の行動や表情から思いを汲み取り、職員間で話し合いを繰り返しながら希望や意向の把握をしていく努力を続けている。	○	ご本人の傍に寄り添い、センター方式の中の「私の願い」と言う視点を大切にし、生活歴（家族からも情報をいただき）などから、ご本人らしい暮らしぶりを知る中で、更なるご本人のご希望や思いを把握していかれることを期待していきたい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使ってアセスメントを始めたばかりである。プラン作成の際にはご本人、ご家族、医師等とも話し合い、介護計画を立てている。職員間でも話し合い、把握が困難な方でも行動や表情から思いを汲み取り、ご入居者主体の計画を作るための話し合いを繰り返している。得られた意見や気づきも反映させて介護計画を作成するように努めている。	○	今回の自己評価の後、センター方式を取り入れた。現在取り組みの真っ最中のため試行錯誤の部分もある。現在、短期計画を6ヶ月としているが、計画内容自体は細かく作成されており、達成の確認のためにも、個々のニーズに応じて短期目標を設定されてみてはいかがであろうか。そのためにも、医師、リハビリの専門職等とも相談し、協働で介護計画の作成をされていかれるのも良いと思われ、今後、検討してみてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月１回のミーティングの中で全員見直しをしている。開設時から毎日ケアプランチェック表を使い、ケアの変化を付け足している。計画の変更点については、ご本人、家族にも報告している。センター方式を取り入れた後、評価についての書式も変更され、より現状に即した介護計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院で全介助だったご入居者、家族の「ホームに帰りたい」と言うご希望で、主治医と相談しホームに戻ることができた。退院後、杖歩行ができるようになり以前のお姿に戻られている。母体の病院の医師と24時間連絡体制をとっており、1週間に1回は病院看護師が全入居者を訪問し医師と連絡を取り合い、老年期特有の変調をチェックし異常の早期発見、寝たきり防止の取り組みをおこなっている。また「温泉に入りたい」「お大師様参りをしたい」と言う個別のご要望にも、なるべく対応できるよう支援を続けている。	○	今後は、地域の方々向けの健康教室を開催する予定もある。ホームとしての多機能性を活かし、運営推進会議なども活用し地域の方々からの要望を聞き取り、地域への還元が行われていくことを期待したい
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族などに希望を聞き、希望の方は、以前からのかかりつけ医を受療していただいている。法人の病院医師が往診されており医師との情報交換はできている。すべてのかかりつけ医についても、いつでも文書などで相談できる体制である。家族へのご報告はホーム内の看護師が電話で報告しており、面会時にも報告している。定期受診など変化のない場合にはご家族の面会時に報告している。	○	現在、なるべく速やかに受診結果を家族に報告するようにしているが、その報告の仕方などを、ご本人、ご家族のご要望を聞きながら、更に丁寧に伝えていきたいと考えている。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じ、その都度、ご入居者、家族と個々に話し合いを重ね、希望があれば終末期まで対応すると言う、ホームとしての“看取りの方針”を作っている。ご入居時、法人病院の医師より説明をおこなっており、重度化や終末期への意向は、現在、数名の方からは把握できている。	○	話しやすい雰囲気を作りながら、ご本人や家族の重度化や終末期に対する思いを尋ねていかれてはいかがだろうか。それぞれに終末期に対するお考えがあるかもしれないので、早めに対応策の検討ができる可能性もあり、ご本人、家族の意向の共有を全員でおこなう取り組みができていくことを期待していきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや名前の呼び方、居室に入るときのノックの徹底など、常に尊敬の念を持って接することを職員は心がけている。個人情報の取り扱いに関しても勉強会をおこなっているが、排泄の場面などで、職員がご入居者に思わず遠くから声をかけてしまったり、申し送りのような話が、ご入居者や来訪者に聞こえてしまうことがあり、お互いに職員同士、注意を続けている。	○	ホームの理念1番に掲げている「人権と尊厳を守りましょう」と言う言葉を意識して、日々、取り組んでいるが、今後も、職員全員がお互いに意識しあい、注意を続けて、理念の実践がおこなわれていくことを期待したい。「自分だったら、どのように対応してもらいたいか」と言う視点で、話し合いを続けていかれてはいかがであろうか。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、ご入居者に、その日の過ごし方のご希望を聞いている。併設施設の職員とも協力し合い、できるだけご入居者のご意向に沿えるよう対応している。ご入居者の希望する温泉や花見見物、以前、働いていた職場や信仰している神社などご希望にそった外出支援をしている。何もせず寝たきりになってしまうのを防ぐため、外出などにお誘いしている。無理強いはしていないが、体調、気分を尊重しながら気分転換を図るよう努めている。	○	今回の自己評価後から、職員の態度が随分ゆったりになってきている。今後も、もう少し、その方の個々のペースを把握し、そのペースを尊重した対応や会話につなげていきたいと考えている。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の副食は法人病院で作られており、カロリー成分の計算がされたものが出されているが、調理から時間が経過し適温のものではなくなっている。朝食、夕食は、ご入居者とともに買出しに行き、下こしらえ、味見、盛り付け、配膳、下膳が行われ、職員も一緒に食事をし、楽しい会話をしながら食事を楽しんでいる。	○	今後は、昼食もホームで作り、提供していきたいと考えられている。18年のクリスマス会で、バイキング形式でおこなったところ、参加したご入居者や家族の方々皆さんに好評であった。家族の方々に、回数などのご意向も聞きながら、今後もバイキング形式を取り入れた楽しい食事をしていきたいと考えている。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご入居前の入浴習慣をお聞きした上で、現在の希望を聞いている。同性介助を原則とし、同性職員がいない場合は併設の施設職員に応援を求めたり、大き目のお風呂を希望される場合には併設のデイサービスの浴場にお連れしている。下肢のむくみがある方や足を暖めたいというご希望者には毎日足浴もおこなわれている。お好みの入浴剤を入れたりしている。	○	ご本人のご希望を聞く前に入浴を薦めてしまうこともあるため、ご入居者のペースを大事にして入浴を楽しむことができよう支援していきたいと考えている。更なる楽しい入浴になっていくことを期待したい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字の得意な方に理念を書いていただき額に入れてリビングに掲げている。編物の好きな方の作品を施設内の随所に飾ったり、裁縫の得意な方と一緒に牛乳パックで作った足台カバーを作っている。歌の好きな方は替え歌を歌っていただき、場の雰囲気を盛り上げていただいている。三味線の好きな方には、併設デイサービスでの発表の場を設けたりしている。長年、培ってきたお一人お一人のお力が発揮できるよう心がけている。	○	もっともっと、ご入居者全員に対して、自身の生活歴や趣味を活かせる役割や楽しみ事を持っていただけるのではないかと考えている。今後もセンター方式を活用し、秘めたお力を見つけたり、ご本人が主役になれる場を作っていかれることを期待していきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	センター方式を活用し、ご本人の思いの把握に努めている最中である。ご入居者が習慣とされていた商店街への買い物や美容室、神社参りなどにお連れしているが、現在のお一人お一人の関心事なども踏まえ、更に気持ちを察した外出支援をしていきたいと考えている。	○	ご入居者のご希望をお聞きしながら、馴染みの場所や習慣とされていた外出場所に出かけることが増えていくと、更に、ご入居者の笑顔や会話が増える可能性も期待できる。今後の取り組みを期待したい。
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ビルの4～5階にあるため、非常口のガラス戸は施錠しているが玄関やエレベーター、階段は自由に使えるようになっている。ご入居者が外出する際は、職員の見守りを基本とするとともに、げた箱に鈴をつけているユニットもあり音で見守る体制もとっている。職員の立つ位置を工夫したり声かけあったりして鍵をかけない工夫を続けている。また運営推進会議で近隣の方にも見守り、連絡の依頼をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防訓練を行い火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず、ご入居者が避難できる方法を身につけたいと考えられているが地域の消防団への協力依頼はまだである。運営推進会議では夜間想定の訓練を提案されている。災害に備えた備品等の準備はまだおこなえていない。	○	11月に夜間想定の火災訓練を開催予定だが、消防団と一緒に訓練をおこない、専門的なアドバイスをいただけることを期待したい。災害時の安心のために、備蓄について何がどれくらい必要なのか、他併設施設の方々とも協議し準備をしていかれることを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の食習慣を把握し、好みに合わせ食材を変えたり、食が進まない方には小皿に少量ずつ盛ったり、食事の時間帯の工夫をするとともに、少量づつ提供し食べていただけるような工夫もしている。献立は、管理者が栄養士であるため日々確認できており、バランスのとれた食事になっている。食事量、飲水量ともに毎日記録されている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段は窓をあけ換気をしているが、リビングには空気清浄機や加湿器が置いてある。建物全体の内装は木の温かみを基調としており、どのフロアにも類似したソファーが置いてあり違和感を感じさせない雰囲気を作ることで、他のフロアへ行っても不安にならないよう考えられている。素足で過ごせるよう床にカーペット、床暖房が使用され居心地良く過ごせるよう配慮している。	○	居心地のよい空間作りに配慮されているが、今後は更にいろいろな方々のご意見を聞いて、より良い環境作りを目指しており、運営推進会議の前に参加者の方をホーム内でお茶会など行い、ご入居者、家族、来館者にもご意見をいただき、居心地の良い空間作りへのアドバイスやご意見をいただけることを期待していきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、その方の身体の状況や住み慣れた部屋の環境を考慮し、住み良い居室づくりができるよう3タイプの居室様式を作っている。ご入居者が一人になりたい時間を過ごせるよう居室前に下げているネームプレートの裏には、入室をご遠慮いただく表示を作成するなど工夫がされているユニットもある。居室には使い慣れた鏡台、箪笥、ぬいぐるみや写真、お孫さんに貰ったものなど馴染みの物をもってきていただき、ご本人、家族で相談して配置していただいている。	○	馴染みのものを持ち込めない方もおられ、今後も更にご入居者と一緒に作った作品や写真を飾るなどして、ご本人にとって居心地の良い環境作りをしていきたいと考えられている。